

## 中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	文学部	身分	准教授
氏名	及川淳子		
NAME	OIKAWA Junko		

## 1. 研究課題

（和文）天安門事件を契機とする中国の言論空間の変容に関する総合的研究

（英文）A Comprehensive Study of the Transformation of China's Discourse Space in the Wake of the Tiananmen Square Incident

## 2. 研究期間

2019・2020・2021 年度 ※2021 年度は新型コロナウイルス感染症特例対応により 1 年間延長

## 3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度）

（和文）

## ○研究の背景・目的・研究計画

本研究は、1989 年の天安門事件を契機とする中国の言論空間の変容について、実証的に明らかにすることを目的とした基礎研究である。天安門事件そのものを分析対象とするだけでなく、事件を契機とした現代中国社会における言論空間の変容に焦点を当てた点が特色である。

研究計画は、資料を収集・分析すると同時に、香港、台湾、アメリカ、ドイツなどの研究者にヒアリングを行い、国際的な天安門事件研究の現状について整理・分析する予定で準備を進めた。新型コロナウイルス感染症の影響により、2020 年からは海外出張の計画を断念せざるを得ず、研究計画に大きな変更が生じたため、日本国内での研究活動に変更した。

## ○研究の内容・成果

（1）2019 年 5 月 18-19 日、中華民国台北市の国立台湾大学において開催された天安門事件 30 周年に関する国際シンポジウム（International Academic Conference on “Value Renewal and Path Finding for China's Pro-Democracy Movement”）に参加し、台湾、香港、アメリカ、フランスなどの研究者と学術交流の機会をもった。

（2）2019 年 6 月 1 日、明治大学現代中国研究所が主催した天安門事件研究に関する国際学術シンポジウム「六四・天安門事件を考える」に出席し、ディスカッションを行った。また、シンポジウムをふまえ、以下を刊行した。

石井知章・及川淳子『六四と一九八九：習近平帝国とどう向き合うのか』白水社、2019 年

（3）2019 年 6 月 22 日、世界文学会第 3 回連続研究会にて、「天安門事件と劉曉波」と題し研究発表を行った。研究発表に基づき、以下の論文を発表した。

及川淳子「六四・天安門事件と劉曉波：歴史に対し道義的責任を負う知識人」（特集 歴史と世界文学（2））世界文学会 編『世界文学（131）』2020.7 p.48-58

（4）以下の論文を発表した。

及川淳子「中国の三〇年：六四・天安門事件から社会主義現代化強国へ」（特集 歴史空間の三〇年：ベルリンの壁崩壊後と平成という時代）神奈川大学評論編集専門委員会 編『神奈川

大学評論 (93)』2019 p.77-85

(5) 2021年3月21日、日本現代中国学会関東部会主催の定例研究会において、「日本外交記録にみる天安門事件と日中関係」と題した研究報告を行った。

(英文)

The purpose of this study was to shed light on the transformation of the Chinese discursive space in the wake of the 1989 Tiananmen Square Incident .

Due to the impact of COVID-19, I had to abandon overseas travel plans from 2020, resulting in a major change in my research plan, and I changed my research activities to those in Japan. I made three presentations at international symposiums, conferences, and research meetings, published two papers, and published one book.